

授業振り返りアンケートの結果は教員表彰にも活用されています！

2018年度より、授業履修者による「授業振り返りアンケート」の授業得点から、優秀授業科目を決定しています。優秀授業科目の担当教員は、教員表彰規則に基づく優秀授業賞候補者^(注1)として推薦されています。下記は2018年度から2019年度における優秀授業科目の担当教員の一覧^(注2)です。「授業振り返りアンケート」は、受講学生のより充実した学びを促進するとともに、教員の授業改善の取組を加速させることにも寄与しています。毎学期のアンケートは大変かもしれませんが、学生自身の率直な振り返りが本学の教育の質を向上させることにも繋がっていることを理解し、取り組んで頂ければと思います。

(注1)教員表彰は、常勤の教員が対象となっています。(注2)氏名に「*」が付している方は、現在、非常勤での担当もしくは退職された担当者です。



優秀授業科目担当者

講義・演習科目			
前田 明	体育学実験Ⅱ -バイオメカニクス-	荻田 太	体育学実験Ⅰ -運動生理学-
高井 洋平	体育学実験Ⅱ -バイオメカニクス-	與谷 謙吾	体育学実験Ⅰ -運動生理学-
竹下 俊一	スポーツ産業論	前田 博子	社会学
森 克己	国語・文章表現法	国重 徹	英語Ⅱ(初級B)
北村 尚浩	社会学	浜田 幸史	保健体育科教育法Ⅰ 保健体育科教育法Ⅳ 特別活動論
中村 勇	キャリアデザインⅠ 武道文化論	隅野 美砂輝	スポーツ産業論
梶 ちか子	保健体育科教育法Ⅰ 特別活動論	栗山 靖弘	国語・文章表現法 生徒・進路指導論①
幾留 沙智	スポーツカウンセリング論	日下 知明	社会学
鵜木 親志*	保健体育科教育法Ⅰ 保健体育科教育法Ⅳ 特別活動論	藤坂 由美子*	国語・文章表現法 生徒・進路指導論① 教師論②
宮本 直和*	体育学実験Ⅱ -バイオメカニクス-	伊藤 るみ子*	国語・文章表現法
柿木 正敏*	国語・文章表現法	小路 由美子*	国語・文章表現法
山田 恭久*	国語・文章表現法		

実技科目			
瓜田 吉久	体カトレーニング	濱田 幸二	バレーボール①② ソフトボール①
前阪 茂樹	剣道② 専修武道論・実習Ⅳ -剣道-	高橋 仁大	競技スポーツ論・実習Ⅱ -テニス-
木葉 一総	バスケットボール② 競技スポーツ論・実習Ⅰ、Ⅱ -バスケットボール-	三浦 健	バスケットボール② ソフトボール① バドミントン① 競技スポーツ論・実習Ⅰ、Ⅱ -バスケットボール-
中村 夏実	海洋スポーツ①②	竹中 健太郎	剣道② 専修武道論・実習Ⅳ -剣道-
松村 勲	体カトレーニング	塩川 勝行	バドミントン①
榮樂 洋光	海洋スポーツ①②	下川 美佳	剣道②
坂中 美郷	バレーボール①②	小森 大輔	体カトレーニング
青木 竜	ソフトボール①	村上 俊祐	競技スポーツ論・実習Ⅱ -テニス-
北村 尚浩	夏季山岳 レジャースポーツ実習	坂口 俊哉	夏季山岳 レジャースポーツ実習
梶 ちか子	ダンス②	日下 知明	夏季山岳 レジャースポーツ実習
小山 公彦*	夏季山岳 レジャースポーツ実習	鈴木 國男*	弓道①②
富山 浩三*	夏季山岳 レジャースポーツ実習	藤坂 由美子*	夏季山岳 レジャースポーツ実習
森下 大輔*	ラグビー②	古田 洋一*	夏季山岳 レジャースポーツ実習

★2020年度 教育企画・評価室の専任スタッフの紹介★

藤井雅文（特任助教）

はじめまして。4月から新たに着任しました。学生の学びの可視化を通じて鹿屋体育大学がより良い大学になるように頑張ります。よろしくお願いします！

岡田あゆみ（非常勤職員）

教育企画・評価室に入り、5年目となりました。皆さんの活躍や成長を間近に感じられる職場で、学生の皆さんに関われることを誇りに思います。皆さんの活躍と爽やかな挨拶・態度を励みに、微力ながらサポートさせていただきます。

<発行>

鹿屋体育大学 教育企画・評価室

〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地

大学院棟 1 階

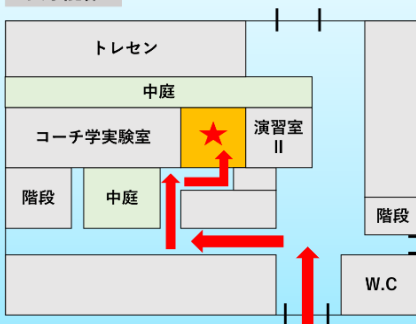
TEL&FAX: 0994-46-5082

E-MAIL: kyoumu-ap@nifs-k.ac.jp

<企画・編集>

藤井雅文・岡田あゆみ・金高宏文

大学院棟



教育企画・評価室のHPもご覧ください



<http://ap.nifs-k.ac.jp/>



◆教員からのメッセージ

◆APの4年間における成果データ

◆教員表彰（優秀授業科目担当者）

◆教育企画・評価室メンバー紹介

教員から体育大生へのメッセージ

「ジンザイ」

学生の皆さんから「教職の…」と言われている方のハマダコウジ（浜田幸史）です。保健体育科教育法などの教職科目を担当し、教育実習、教員採用選考試験、教員免許取得に関する指導等を行っています。

さて、皆さんは「ジンザイ」と聞いて、どのような字を思い浮かべますか。実は「ジンザイ」には、一般的に4つの表記があるとされています。

「人罪」他者に迷惑をかけ、組織にとってお荷物の人。「人在」成長が期待できない、組織にただいるだけの人。「人材」才能があり、組織にとって必要な人。「人財」かけがえのない、組織の中核を担う人。現時点のあなたは、どの「ジンザイ」でしょうか。

私は、学校や教育行政の場において、活力ある言動で人の心と体を動かすことのできる「人財」となっている本学卒業生を何人も知っています。対話してみると、皆さん様に、体大卒業生であることにプライドを持ち、とてもエネルギーギッシュであること、学生時代にはムチャもしたものの、学業や課外活動、他者との交流に盛んに取り組んでいたことがわかります。

本学学生の強みは、全員が競技に打ち込んできた経験を有することにあります。その経験から「人材」たる素地を、皆、持ち合わせています。体大で、今、これから、何をどうするかで、近い将来、社会において「人財」となり得るかどうかが決まるのではないのでしょうか。皆さんの「主体的・対話的で深い学びの実現」を期待しています。

「興味の赴くままに」

スポーツトレーニングや陸上競技の授業を担当している永原です。研究では、スプリント走の機序解明、スポーツのパフォーマンス決定因子および向上方略の究明・評価法開発などを行っています。

大学は、知に関する教育、研究、社会貢献を柱とした最高学府です。競技とともに、知に関することでも世界一を目指してはいかがでしょうか。勉強という意味ではありません。自らが取り組んでいるスポーツに関する知についてです。大学は、自由であることを特徴の一つとしています。やりたいことがあれば、信念をもって、興味の赴くままに取り組んでください。他人から批判や否定をされるかもしれませんが、それはどうでもよいことです。責任を負うのは自分です。大抵はうまくいきませんが、初めからわかることはありませんので、気にしてはいけません。何が役に立つか、将来につながるか、見通すことは困難であり、時間は資源として有限です。時間を無駄にせず、自分の直観を信じて、興味のある目の前のことに全力を傾けて気合と根性で取り組んでください。何かを成すにはそれしかありません。注意することは一つだけ、他人と違うことをすることです。最後に、若者はしばしば能力が低いのに自己評価が高いなどと言われる、それはダニング=クルーガー効果と呼ばれたりします。しかし、私はそれが悪いことだとは思いません。それだけ無謀な事にチャレンジできるということです。ぜひ、興味の赴くままにチャレンジしてみてください。



スポーツ・武道実践科学系

永原 隆 講師

研究キーワード

スプリント走

トレーニング

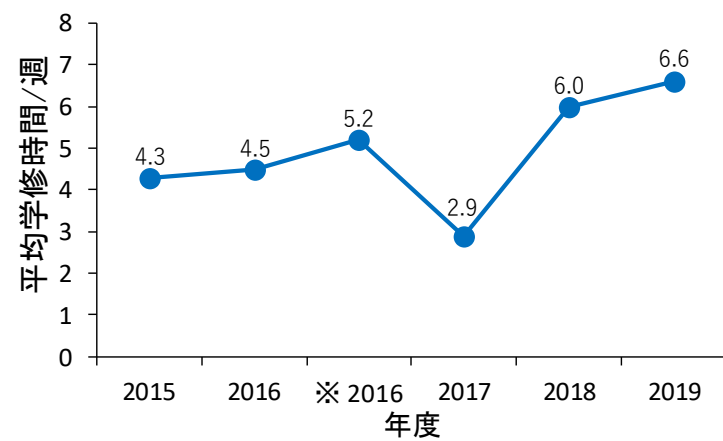
評価法・テストの開発

体育大生の学びの変化(2016～2019年度)

本学では「卒業時における学びの質保証の取組の強化」を2016年度より文部科学省の競争的補助金の支援を受けて、全学的に取り組んできました。特に、ディプロマポリシー(DP)を担保する「多様なスポーツリーダーとしての自覚と実践的なスポーツ指導力の養成」及び「段階的かつ継続的なライフ・キャリアデザイン力と社会人基礎力(汎用的能力)の養成」の状況を、学修行動や学修成果の可視化から確認し、継続的に教育改善が行える教学システムを確立することを目指し、以下の4点(右図参照)に取り組んできました。

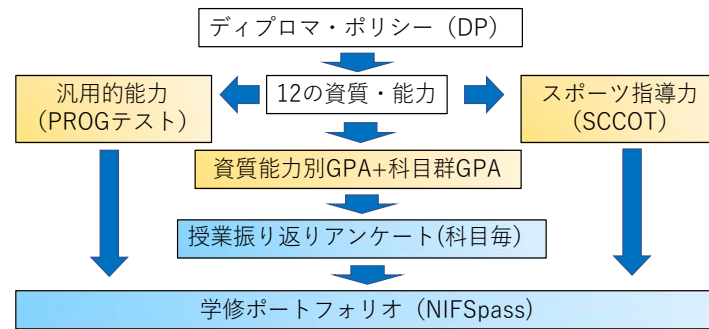
- ①科目群毎に加え、DPで目指す12の資質・能力別の修得度を授業の成績評価(GPA)を活用して可視化すること
- ②「汎用的能力(PROGテスト)」、「スポーツ指導力(プロフィール型テスト: SCCOT)」、「学修行動(授業振り返りアンケート)」等を可視化すること
- ③「学修ポートフォリオ(NIFSpass)」を構築し、運用すること
- ④教育改善に向けた教学マネジメント機能を強化すること

授業外で学ぶ時間が増加中



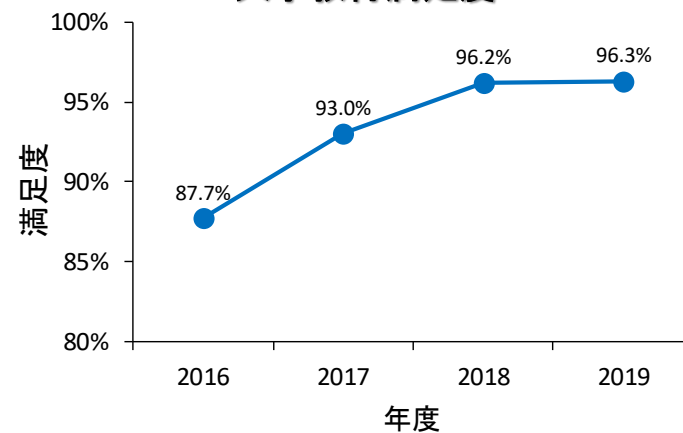
※計算の簡便化のため、各カテゴリの中間値の時間を用いている。
 なお、前後が2倍ずつ増えているため、「30h以上」には「45時間」を用いている。
 参考資料: 国立教育政策研究所 (http://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_digest_h29/gaiyou.pdf)

【卒業時の質保証のための学修成果の可視化と学修改善の取組の概要】



その結果、紙面にあるように本学学生の学びの変化が生じ、卒業時における学びの質保証の取組の強化を図ることができました。まだまだ課題も残りますが、さらに本学学生の学びの充実が図れるような教育の改善を進めます。
 なお、本学の取組は、全国の体育・スポーツ系大学の中でもユニークな取組として注目を集めています。

卒業時の教育の満足度向上中 大学教育満足度



学修成果の振り返りは、7割の学生で定着。全学生の定着に向けた取組が必要！

～学修ポートフォリオ(NIFSpass)の回答率: GPAは増加、PROG・SCCOTは低下～

NIFSpass: 学修ポートフォリオシステムの構築

GPA

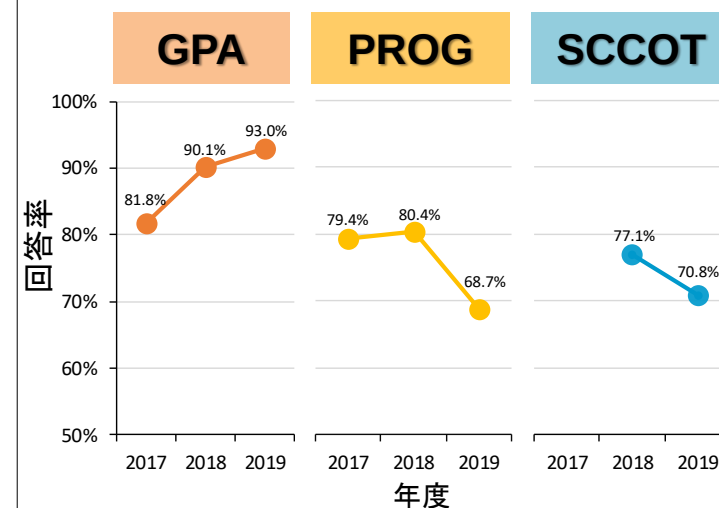
PROG

SCCOT

※ Q1. データを見て、あなたの強みや長所は何だと思いますか。
 わたしの長所は、実技力とコミュニケーション力です。
 (記入日時: 2018-10-11 16:32:25 [サンプル学生1])

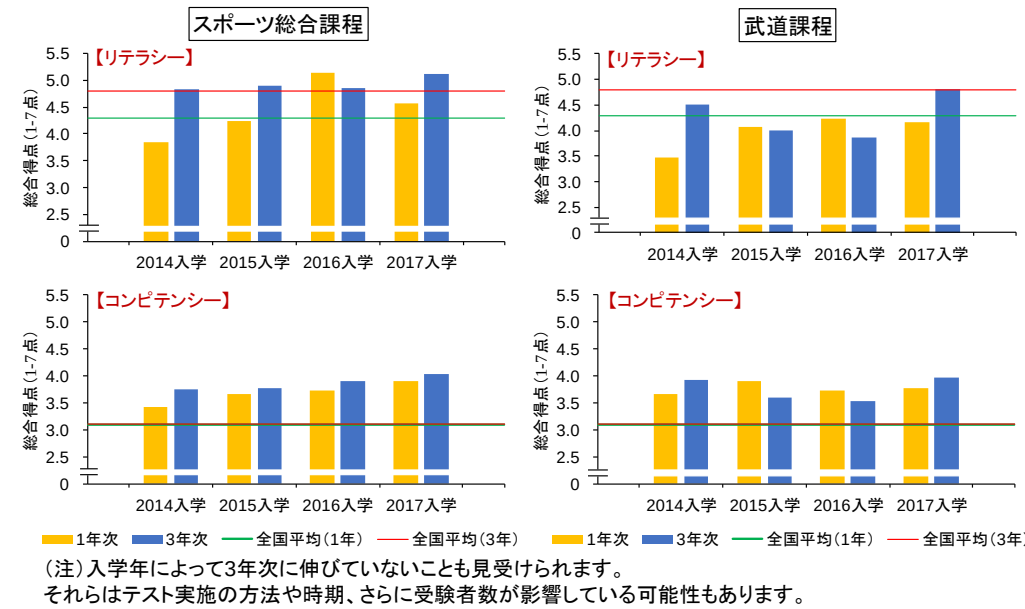
※ Q2. 今後、どんな資質や能力を伸ばしたり、身に着けたいと思いますか。
 今後、実技指導力を伸ばしたいと思う。将来、教員を目指しているので、自分の専門競技以外の競技でも指導できる力を身につけたい。
 (記入日時: 2018-10-11 16:32:25 [サンプル学生1])

※ Q3. 具体的に、どんな手段や方法で改善を目指しますか。
 スポーツ指導実習や教育実習の他にも、違う部活の友達に指導方法や練習方法を聞いてそれをまねたいと思う。色々な競技をしている友達がいるのは体育大学の特徴だと思うので、大学のうちに多くの知識や指導方法やコツを学ぶ。
 (記入日時: 2018-10-11 16:32:25 [サンプル学生1])



汎用的能力(PROGテスト)のリテラシーは3年次までに大きく向上！

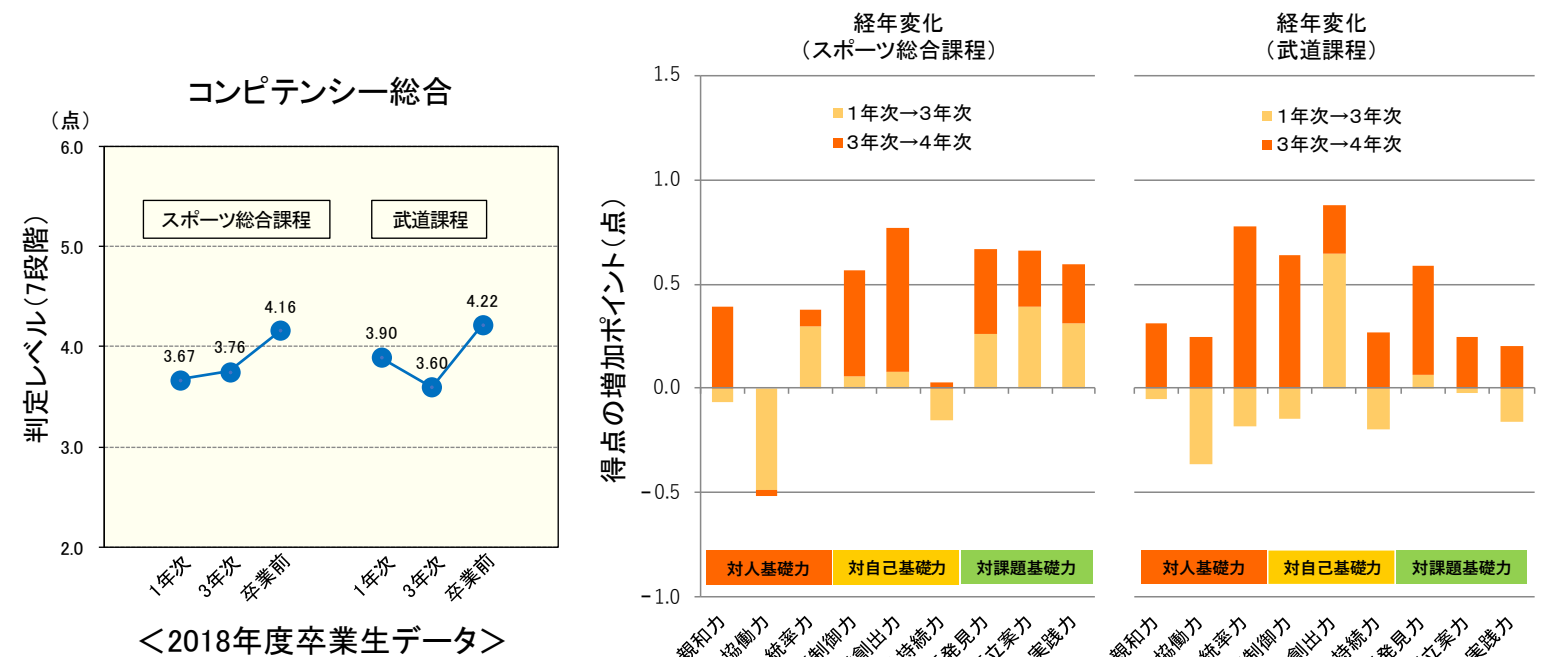
(注: リテラシーとは、知識を活用した課題解決力のこと。数理処理や言語処理力も含む能力のこと。)



体育大生のコンピテンシーは、入学時から全国平均値よりも高く、3年次でも高いことが特徴です。
 一方リテラシーは、これまで低い傾向が続いていました。しかし、新教育課程3年目に入学した2017年入学(新4年生)の3年次の平均値は、初めて全国(大学3年次)を上回りました。武道課程の学生も初めて平均値に並びました。
 これは、本学の教育や学修によって課題解決する資質・能力が向上したことを示しています。それ故に、本学学生は自分たちの学びにもっと自信を持って、様々なことにチャレンジしましょう。

汎用的能力(PROGテスト)のコンピテンシーは4年次卒業研究等でさらに向上する

(注: コンピテンシーとは、課題解決をするための行動力。人と協力して課題解決を行うことや活動を継続する能力等を含んでいます。)



★学びの質保証の基本は、授業科目毎で学修・授業改善サイクルを回すこと！

以上のように4年間の取組で、本学学生の学びの変化を確認するとともに、課題も明らかになってきました。しかし、学びの質保証の基本は、授業科目毎での学びが基本となります(右図)。DPで目指す資質・能力がどのように学ばれているのかを学生、授業担当者が毎回確認しながら、よりよい学びへと導く学修・授業改善サイクルを継続的に回すことが大切といえます。
 今回は紙面の都合で「スポーツ指導力」の学びの変化について紹介できませんでしたが、次号ではそれらについて紹介したいと思います。

